

- 2・3面 第111次海員FOC・POCキャンペーン〈北海道/東北/関東/新潟/関西/大阪/中・四国〉
- 4面 以東沖合底引き網漁船出港〈九州関門〉

船員しんぶん

◆ホームページアドレス <https://www.jsu.or.jp> ◆Eメールアドレス kaiin@jsu.or.jp
全日本海員組合発行 第3128号 (昭和25年8月24日第三種郵便物認可)

2026年(令和8年)
9月15日
本紙は毎月5・15・25日発行

〒106-0032 東京都港区
六本木7丁目15番26号
全日本海員組合本部
発行人 齋藤 洋
TEL 03-5410-8329
FAX 03-6910-5339
定価1部50円
(組合員の購読料は組合費に含む)

愛媛県八幡浜港・体験乗船会

「一日海員学校」を開催



8月20日、愛媛県八幡浜港で、本組合主催の体験乗船「一日海員学校」を開催し、愛媛県八幡浜市在住の小学校4年生から6年生までの児童100人が参加した。またこの日は、愛媛県立宇和島水産高等学校の教諭と7人の生徒たちにスタッフとして協力していただいた。この一日海員学校では、八幡浜港と大分県の別府港を往復する宇和島運輸株式会社のフェリー「れいめい丸」と「あかつき丸」に乗船し、操舵室や機関室を見学し、船員の仕事とロープワークを学んだほか、別府港の水族館で海の生物について学んだ。

宇和島運輸株式会社の「れいめい丸」と「あかつき丸」に乗船



一日海員学校では、午前8時50分に開校式が始まり、全日本海員組合を代表し平岡英彦中央執行委員長が「船は私たちが生活するうえで極めて重要な役割を担っている。本日は宇和島運輸のれいめい丸とあかつき丸に乗船し、普段立ち入ることのできない操舵室や機関室の見学、ロープワーク教室など、船と船員について学びたい。この体験を通じて、将来皆さんのの中から船員になりたいという人が出てくることを期待している」とあいさつをした。その後、松岡正幸宇和島運輸株式会社代表取締役社長と菊池司郎八幡浜市副市長からあいさつが述べられた。

また来賓として体験乗船に駆け付けてくれた菅森実愛媛県議員、組合政治参与と山崎健吾国土交通省四国運輸局宇和島海事事務所所長が紹介された。

「れいめい丸」で別府港へ

開校式が終わると全員が「れいめい丸」に乗船し、子どもたちは10班に分かれ出港スタンバイ中の機関室を見学した。乗組員から設備機器やプロペラに関する説明が行われ、大きな機関室に初めて入った子どもたちから「エンジンの大きさにびっくりした」などの感想が聞かれ、驚きを隠せないようすが見られた。

機関室見学が終わると「れいめい丸」は大分県の別府港へ向け出港した。航海中の船内では「れいめい丸」の坂本吉輝船長からあいさつが行われ、操舵室見学や船と船員についての勉強会が行われた。



ロープワーク教室

別府港からの復路は、愛媛県立宇和島水産高等学校の善原武士教諭から学校の紹介が行われた後、ロープワーク教室が開かれ、愛媛県立宇和島水産高等学校の生徒が、日常生活でも役に立つ本結びや巻き結び、もやい結びを教えた。

「あかつき丸」で八幡浜港へ

別府港に到着すると大分マリンパレス水族館「うみたまご」に移動し、班ごとに海の生物を見学した。大きな水槽の中を泳ぐさまざまな魚やイルカショーなどを楽しんだほか、海の生物の勉強会が行われ、水族館スタッフから魚の習性などについて説明があり、子どもたちは普段知ることのできなかったことを楽しく学んだ。



うみたまご

最初は苦戦していた子どもたちも、高校生の優しく教えてくれる教諭で、最後には全員が結び方をマスターした。八幡浜港に到着し、子どもたちの保護者が出迎える中、旅客ターミナル1階で閉校式が行われ、本組合の除補修中・四国地方支部長と八幡浜市立川之石小学校の菊池多恵校長から締めくくりのあいさつが行われ、一日海員学校は無事に終了した。

体験乗船の感想アンケート

▽世界との貿易では物資の99・6%が船で運ばれていることを知ることができて良かった▽操舵室でレーダーやコンパスなどいろいろな機械を見てよかった▽機関室では大きなエンジンやいろいろな機械を見ることができて、楽しかった▽ロープワーク教室で、いろいろな結び方を教えてもらった▽楽しかった▽船の人数がどれだけ大変な仕事をしているかがわかった▽将来は海に関する仕事をしたいと思っていたので、海や船のことをたくさん知ることができてよかった▽宇和島水産高等学校に進学して、将来は船員になりたいなどの感想が聞かれ、子どもたちにとって「一日海員学校」は夏休みの貴重な思い出となった。

大分県別府港到着「うみたまご」を見学

別府港に到着すると大分マリンパレス水族館「うみたまご」に移動し、班ごとに海の生物を見学した。大きな水槽の中を泳ぐさまざまな魚やイルカショーなどを楽しんだほか、海の生物の勉強会が行われ、水族館スタッフから魚の習性などについて説明があり、子どもたちは普段知ることのできなかったことを楽しく学んだ。

最初が苦戦していた子どもたちも、高校生の優しく教えてくれる教諭で、最後には全員が結び方をマスターした。八幡浜港に到着し、子どもたちの保護者が出迎える中、旅客ターミナル1階で閉校式が行われ、本組合の除補修中・四国地方支部長と八幡浜市立川之石小学校の菊池多恵校長から締めくくりのあいさつが行われ、一日海員学校は無事に終了した。

第111次 海員FOC・POCキャンペーン

全国の主要港で訪船・安全点検作業



不良の船舶設備などが要因となり、海洋汚染や海難事故が多発した。

▼POCとは

《Port Of Convenience》便宜港湾。港湾労働者の労働条件や労働環境がILOの基準以下になっている港のこと。

港湾多国籍企業がグローバル化や規制緩和などを利用して、コストを削減しようとしている。結果として未組織労働者や期間労働者の活用、船員による荷役作業、低賃金や長時間労働、労働協約の不履行、安全衛生面の質低下などが生じる。

▼キャンペーンの内容

未組織FOC船に訪船する。船員の月例賃金や時間外労働などが分かる書類の確認、安全点検、船員への聞き込みを行いながら、査察報告書を作成。本組合の本部国際局と連携のもと、労働協約の締結を図る。

必要に応じ、警告文の手渡しやPSC（外国船舶監督官）による立ち入り検査）の要請を行う。

▼目的

本来の船舶に戻し、その国が定める基準を厳正に守らせ、船主責任を明確にして、乗組員や船舶の安全を確保する。乗組員を労働協約によって保護し、労働者の受けるべき最低基準（最低賃金や生活保障、障害・死亡保障、送還など）を適用させる。

▼経緯

ITF（国際運輸労連）は1971年、世界10港にITFフィンスペクターを配置。船員の労働条件や安全・荷役設

備の点検とともに、ITF労働協約の締結を推し進めてきた。2006年の世界大会で、FOC対策とともにPOC対策活動を決定。以来、FOC・POCキャンペーンとして取り組んでいる。

全国主要港で FOC・POC キャンペーンを実施

北海道地方支部

7月28日から30日までの3日間、苫小牧港・室蘭港・石狩湾新港で、北海道地方支部管内全支部合同の第111次海員FOC・POCキャンペーンを実施し、計7隻（苫小牧港5隻、室蘭港1隻、石狩湾新港1隻）の安全点検活動を行った。

査察した船舶のうち4隻がITF承認協約所持船舶であり、ILO最低賃金を下回る船舶も見受けられたため、指摘を行いつつ労働条件・環境について点検を行った。

また、労働条件に関するヒアリングに対しては賃金水準に概ね不満はない船員が多かったが、本キャンペーンの主旨を説明した上でITF承認協約締結の必要性を説明するとともに、ITF承認協約締結を求める警告文を船主・管理会社に送るよう要請した。

今後も船員の労働条件・労働環境の確保に向けた活動を展開していく。

東北地方支部

7月28日から3日間、東北地方支部・八戸支部・気仙沼支部・小名浜支部は合同で、東北地区の特定港である仙台港と塩釜港および石巻港で第111次海員FOC・POCキャンペーンを実施し、FOC船舶への査察活動を行った。

キャンペーン期間中、計5隻の査察活動を行った結果、ITF承認協約を所持していない2隻に対し、ILO最低賃金の水準やITF承認協約に基づく労働諸条件などを説明するとともに、1隻にはITF承認協約の締結を求める文書を手渡した。また、ITF承認協約を所持していた船舶では、協約書や証書の備え



関東地方支部

7月28日から3日間、東京港・横浜港・川崎港それぞれの港で、港湾労組と共同で第111次海員FOC・POCキャンペーン活動を展開し、今度キャンペーンは、3日間延べ50人体制、16隻を査察訪船し安全点検を実施した。

訪船活動の事前作業では各港の関係各所へキャンペーン活動の趣旨を説明し、理解と必要な協力を求め、査察訪船活動では主に船舶設備の安全点検作業を行い、7隻に警



新潟支部・北陸支部

新潟支部と北陸支部は、7月28日から30日までの3日間、港運同盟（金沢港運労

組）と全港湾（七尾支部・伏木支部）と連携し、第111次海員FOC・POCキャンペーンを金沢港と富山港で実施し、計5隻を査察訪船し、安全点検作業を行った。

査察訪船活動では、ITF承認協約の締結を求めるとともに、港湾労組と一緒に船舶設備や荷役設備の安全点検を実施し、PSC出動要請までの不具合は発見されなかったものの、落下防止のロープがないなど、安全に対する配慮が不十分なものも注意喚起を行った。引き続き、船員の労働条件・労働環境の整備と荷役作業上の安全確保に向け、

港湾労組と連携し取り組んでいく。

FOCとは
《Flag Of Convenience》便宜国旗。税金その他の点で便宜を与えてくれる国で船籍登録した船舶が掲げる登録国の国旗のこと。また、そのような外国に登録された船舶。
船舶の受益所有権が、その船舶の旗国以外にあることが明らかになった場合、その船舶はFOCのもとに航行しているとみなされる。
FOC化の弊害
労働供給国船員が自国船員に取って代わり、自国船員の雇用縮小を招き、結果として後継者確保が困難になった。また、ゆるい安全基準や能力不足の船員、メンテナンス



関西地方支部

7月28日から30日までの3日間、神戸港で第11次海員FOC・POCキャンペーンを実施し、名古屋支部、職場委員、港運同盟兵庫地本が参加し、延べ30人で計11隻を査察訪船し、安全点検活動を行った。

内容はITF協約未締結のFOC船6隻、自国籍船3隻、近海FOC船1隻、ITF協約締結のFOC船1隻となり、ITF協約未締結の船舶には、ITF承認協約の労働条件や労働環境整備の重要性を説明し、会社に対しITF承認協約を締結するよう求めた。

大阪支部

7月28日から30日までの3日間、大阪港で第11次海員FOC・POCキャンペーンを実施し、大阪支部の執行部と港運同盟の延べ27人が参加、計12隻を査察訪船し安全点検作業を行った。

今回のキャンペーンでは、関係支部との連携を密に行うとともに、船舶の古い船舶では船舶設備を重点的に安全点検したが、保守整備や衛生面でも問題なく、PSCの出動要請は行わなかった。

中・四国地方支部

中・四国地方支部管内では、7月28日から30日までの3日間、管内の4支部合同で広島港・坂出港・福山港・今治港で第11次海員FOC・POCキャンペーンを実施し、計10隻を査察訪船し、安全点検活動を行った。

今回のキャンペーンでは、関係支部との連携を密に行うとともに、船舶の古い船舶では船舶設備を重点的に安全点検したが、保守整備や衛生面でも問題なく、PSCの出動要請は行わなかった。

2026年9月15日

中央選挙委員会 議長 齋藤 洋

第40期全国委員の当選告示

一、2026年9月5日付で告示した第40期全国委員補充選挙については、立候補の受け付けを締め切り、立候補者の資格審査を行い、候補者が適格であることを確認した。

対立候補者がいない立候補状況であることから、全国委員選挙規則第25条D項により投票を略し、当選人を次の通りとする。

《地区区・地方単位》

04 関西

(補充定員1名・立候補者1名)

当選人 山田 龍之助 名古屋支部在籍専従執行部員

第41期全国委員の資格喪失告示

一、次の者は、規約第47条A項6号により、全国委員資格を喪失したので告示する。

《地区区・地方単位》

04 関西

05 中・四国

06 九州・沖縄

二、次の者は、規約第47条A項8号により、全国委員資格を喪失したので告示する。

《企業区・企業単位》

037 関東地区内航Dグループ

041 日本海洋事業

048 関東地区港湾グループ

048 関東地区港湾グループ

051 佐渡汽船

今井 康貴

深川 隼輔

谷本 重之

伊勢田 旭洸

古畑 勇

第41期全国委員・補充選挙の告示

規約第45条および全国委員選挙規則第25条に基づき、

今次キャンペーンでは興徳 F承認協約の重要性について

海運所有船舶「CONTAINER」に査察訪船を試みた船では適用協約や乗組員構成などの確認を行った。

また、すべての船舶で安全点検を行った結果、特段の問題は見受けられなかった。

今後船員の労働条件改善を目的としたITF承認協約の締結および安全・安心な労働環境の確保に向けた活動を継続していく。

係書類の確認を行うとともに査察団がITFの活動とITF承認協約の重要性について

第41期全国委員補充選挙の実施について次のとおり告示する。

一、補充選挙を行う選挙単位と補充定員

《選挙単位コード・単位名》

地方単位 04 関西

地方単位 06 九州・沖縄

企業単位 037 関東地区内航Dグループ

企業単位 041 日本海洋事業

企業単位 048 関東地区港湾グループ

企業単位 051 佐渡汽船

二、補充選挙の実施日程

立候補届出期間 2026年9月15日より

候補者告示 2026年9月24日まで

投票期間 2026年9月25日

2026年9月25日

2026年9月25日

2026年10月24日まで

2026年10月25日(予定)

三、補充選挙の被選挙人

(1) 地区区

全国委員選挙規則第25条A項により、補充選挙告示日に当該地方単位の支部機関に配属されており、選挙資格を有する執行部員とする

(2) 企業区

全国委員選挙規則第25条B項により、補充選挙告示日に補充選挙を行う企業単位に所属する完全資格組員とする。

四、立候補の届け出

立候補をする者は、全国委員選挙規則付表の一に定める様式に基づく立候補届を担当地区選挙委員会へ提出すること。

五、補充選挙の実施に関する問い合わせ先

中央選挙委員会事務局(総務部)

以上



乗組員の紹介

8月15日、下関漁港を拠点とする山口県以東機船底曳網漁業協同組合所属の沖合底引き網漁船の出港式が行われ、12隻が漁場に向けて一斉出港した。

出港式には、乗組員の家族や漁業関係者が出席し、はじめに航海安全・大漁祈願祭が執り行われた。

続いて山口県以東機船底曳網漁業協同組合の宮本洋平代表理事組合長が「昨シーズンの水揚げ金額は若干上回ったものの、昨今の燃料費、資材費、修繕費などの高騰や乗組員不足により厳しい状況が続いている。下関沖底は地域の水産を支える基幹漁業であり、資源管理を図りつつ事業を継続し、次世代へつないでいくことがわれわれの使命である」とあいさつし、漁労長

をはじめ、外国人漁業技能実習生が舞台上上がり、乗組員の紹介が行われた。

次に鏡割りと大漁三唱、散餅式と続き、下関市役所吹奏楽団の演奏が行われ、沖合底引き網漁船の出港を盛り上げた。

漁場へ向かう各船は、山口県秋市の見島沖合から長崎県対馬周辺までの海域で、来年5月末まで操業し、アンコウ、アカムツ、カレイ、ヒラメ、タイなどを漁獲する。

日本の伝統的な食文化で食卓を飾る大漁が期待されており、見送りに来た家族や関係者が、出港する各漁船の安全操業・安全航海・大漁を願う中、大漁旗を掲げた各漁船が、汽笛を鳴らしながら次々と出港した。

《九州関門地方支部Ⅱ発信》

第十住吉丸



第一磯前丸



7月25日、株式会社磯前漁業所の遠洋マグロはえ縄漁船「第一磯前丸」が、気仙沼市にある株式会社みらい造船の岸壁から、北大西洋の漁場に向けて出港した。

株式会社磯前漁業所は、茨城県那珂湊港で江戸時代から続く船主。長年ペルー沖などから良質の「天然マグロ」を国内の市場に届けてきた。

担当する三崎支部は、出港前に訪船し、乗組員に令和8年度労働協約改定交渉妥結内容を説明し、意見交換を行った。また、インドネシアニューズなどを手渡し激励した。

出港時の見送りでは、乗組員の家族や関係者が「頑張ってください」と、エールを乗組員に送った。

《三崎支部Ⅱ発信》



石巻港



7月27日、東北地方支部2階会議室で「石巻地区沖合底曳網漁船組合員大会」を開催した。

はじめに山崎暁先任事務職員を議長に選出し、続いて高橋雅幸東北地方支部長が「休漁期間中の貴重な時期にお集まりいただき、感謝申しあげます。本大会は、海員組合の一年間の活動に対する理解を深め、次年度の活動および労働協約改定要求について話し合う大変重要な会議となっているので、忌憚のないご意見を賜りたい」とあいさつした。

議事に移り、令和7年度の活動報告が行われ、水産部の活動と東北地方支部の活動、労働協約改定交渉の経過などを説明し、質疑応答の中で理解を深めた。

次に水産部門の活動方針

(案)の▽政策課題への取り組み▽漁船の代替建造への取り組み▽生産者魚価の確立と漁業用燃料油高騰への対策▽水産部門の国際活動▽海難事故の撲滅と安全な漁業労働環境対策▽漁船員の後継者確保・育成対策▽労働協約改定要求(案)が説明され、出席者から▽労働協約に関する質問▽船員大会や乗組員が集まる場を活用してのAED使用方法の講習会などの質問・意見があり、質疑応答で理解を深め、満場の拍手で確認された。

最後に、沖合底引き網漁船を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いているが、課題の解決に向け、現場組合員と執行部で一丸となつて取り組むことを確認した。

《東北地方支部Ⅱ発信》

山口県以東機船底曳網漁業協同組合

大漁
祈願

下関漁港から12隻が 漁場に向け一斉出港



漁場に向け出港

遠洋マグロはえ縄漁船

株式会社磯前漁業所
第一磯前丸

住吉漁業株式会社
第十住吉丸



令和8年度 石巻地区

沖合底曳網漁船組合員大会

